

出向く宮農レポート

～新鮮野菜が大好きで栽培をはじめました～



中部宮農センター
伊藤日菜

令和3年度に女性のアグリスクールを卒業した下川はるみさんが栽培している夏野菜の生育状況を確認するため圃場に伺いました。卒業後、アグリスクールで学んだ栽培方法などを活かし、収穫した新鮮な野菜を日進園芸センターへ出荷していただいています。現在は、アグリスクールで学んだ中玉トマト、ミニトマト、ナス、ピーマンの他にキュウリ、オクラ、モロヘイヤ、シソなどを栽培しています。トマト、ナスやピーマンはしっかりと仕立ててあり、順調に実をつけていました。

一見、順調に見えるトマトですが、よく見てみると実の凹みや形がいびつになっているものを発見しました。これはカメムシによる被害で、実に針で刺されたような穴があるのが観察のポイントです。今年はカメムシの発生が非常に多い傾向にあり、下川さんのトマトも残念ながらカメムシの吸汁被害を受けていました。

また、併せて表面にかすり傷のような症状がみられる果実もありました。これはミカンキロアザミウマというアザミウマ類の吸汁の症状です。カメムシの対策としてスタークル顆粒水溶性、アザミウマの対策としてディアナSCを散布するよう指導しました。

ご家庭で作られているトマトに、なんだか張りが無いと感じたらカメムシやアザミウマといった針を刺して汁を吸う害虫が疑われますので、ご観察下さい。



カメムシによる被害が発生したトマト

トマトのカメムシ対策

スタークル顆粒水溶性

- 希釈倍数:2000倍
- 使用液量:100～300ℓ/10a
- 使用時期:収穫前日まで
- ジノテフランを含む農薬の総使用回数:5回以内(培土混和及び灌漑は合計1回以内、育苗期の株元散布は1回以内、定植時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)



トマトのアザミウマ対策

ディアナSC

- 希釈倍数:2500～5000倍
- 使用液量:100～300ℓ/10a
- 使用時期:収穫前日まで
- スピネトラムを含む農薬の総使用回数:2回以内



※使用に際しては製品ラベルの記載内容に従ってご使用ください。

下川さんにインタビューしてみました!!

Q 女性のアグリスクールに参加してみてどうでしたか。

A 女性のアグリスクールに参加するまでは全く農業経験がありませんでしたが、自分で野菜を作りたいという思いから参加し、基礎から出荷まで学ぶことができました。とくに野菜の生長過程を見ることがとても楽しく、オクラの高さが自分の身長より大きくなったことに驚きました。もともと野菜が大好きなので、アグリスクールで栽培して美味しかった緑色のナスなど少し変わった野菜にも挑戦しています!また、アグリスクールの仲間とは今でも情報交換したり、作った野菜を食べたりするなど交流しており、気軽に相談できることも心強いです。

Q 出荷についてどう感じましたか。

A 最初に野菜が売れたときは飛び上がって喜びました。あの感情は忘れられません。今でも出荷したら売り場を覗きに行ってしまう。自分が一生懸命栽培した野菜が売れるのはやはり嬉しいです。

